

令和6年度 学長と学生との懇談会 懇談概要について

「学長と学生との懇談会」は、学長をはじめとする大学執行部と学生たちが直接意見交換をすることで、学生の希望や意見を適切に把握し、今後の学生生活支援の更なる充実や学生の意見を大学運営に取り入れ、改善を図ることを目的に毎年開催しているものです。令和6年度は、令和6年12月11日（水）に開催しました。今年度は、技大祭実行委員会、学生宿舎入居者、ぴあサポーター、サークルなどで活躍している学生、留学生の11名の学生が参加しました。以下は懇談の内容をまとめた概要になります。

1. 本学に入学して満足していること

- ①人間関係や環境の変化に伴うストレス不安を抱えた時に相談できる場所が複数存在している。
- ②実務訓練により働くイメージを持つことができ、就職支援体制も充実している。
- ③普通高校から進学した学生でも幅広い分野を学んでから課程を選ぶことができるので、自身に合ったコースに進むことができる。
- ④中期派遣プログラム（海外留学プログラム）など本学特有のプログラムがある。
- ⑤経済的に余裕がない学生に対しての支援が充実している。
- ⑥留学生が多く、留学生と交流できる。海外との交流も多い。
- ⑦高専時代に学んだ分野から異なる分野にも挑戦できる。
- ⑧教員免許状を取得できる。
- ⑨研究設備、図書館など設備面が充実している。
- ⑩幅広い分野の科目を選択できるようになっている。
- ⑪留学生に対しても経済的支援、学習、生活環境でのサポートが充実している。

大学側コメント

・本学の良い部分については、十分認識していただいていると感じている。
 ・母校に帰った際は、本学の良い部分を是非PRしていただけるとありがたい。
 ・本学では、パーベキューもできる自由な環境ではあるが、学生が自覚を欠いた行動によって救急車搬送や消防車出動などの事態も発生していることから、学生の皆さんも最低限のルールを守って行動していただきたいと考えている。万が一、自覚を欠いた行動により、不測の事態が発生した場合は、これまで自由に活動できていたことが制約される可能性もあることから、それを踏まえ、充実した学生生活を送って欲しい。

2. 本学の改善して欲しいところ

学生からの要望・提案	大学側回答
①研究室の先生から学生に対する精神面の理解が乏しい（研究室の忙しい環境に慣れてしまった先生方はデリカシーがなく精神的に追い詰められた学生をさらに追い込むことがある）（今まで精神的に追い詰められた学生が何人も出ているが実際理解が足りないと感じる場面がある／うつ病となってしまっからの休む対応などは良かったが、そうなる前にケアするべきだと思う）	<p>・直接、指導教員に相談しにくい場合は、アドバイザー教員制度があることから、そちらの活用を検討して欲しい。</p> <p>・教員側にも教育研究評議会もしくは系長懇談会で周知するとともに専攻主任、課程主任にもメールにて周知を行っていく。</p> <p>・どこにも相談できないような状況であれば、学長提案箱で知らせて欲しい。</p>
②学生が相談窓口へ相談したにも関わらず、誰が相談したか当事者にわかってしまったケースがあることから、その体制を見直して欲しい。	<p>・学生の相談後の情報管理については徹底しているが、今一度、情報管理体制を含め、見直しを行っていく。</p>
③学部1、2年の教育の質を向上させること。学部1、2年は学部3年入学（編入生）との知識の差を縮めるための教育プログラムであるが、研究室に配属されてから編入生との知識差を痛感した。普通高校を出てから約2年間の教育と高専5年間の教育では差が出るのは当然かもしれないが、学部1、2年でその差を出るだけ埋め合わせるような教育が必要だと感じた。具体的には、officeの使い方やその分野のより基礎的な部分から学べる講義、また異なる専門講義間の関連性を学ぶ場があると良いと思う	<p>・教育の質保証に向けて、貴重な意見として受け止めさせていただく。</p> <p>・各分野・専攻によって異なる部分もあるが、自身の分野・専攻にとらわれず、様々な分野にチャレンジできる環境も整っているため、そのような機会も積極的に活用して欲しい。</p>

④大学の広範囲にわたって LTE回線の電波が届かないだけではなく、eduroamすら拾えない状況がよく確認される。講義棟内はeduroamで広くカバーされているが、アクセス集中により結果的に講義中に使用が困難な場面が頻発している。eduroamでの対応に限界があるのであれば、各キャリアの小型基地局を設置するなどの対策が欲しい。学内wifiが授業に影響をきたすほど弱いので改善していただきたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・アクセスポイントの新設の計画は立てているものの、予算の都合もあり、令和7年度から福利棟も含め順次設置していく予定である。 ・担当課からは、改善したとの報告を受けているが、今一度、調査をする等検討していく。
⑤教員から学生に情報を周知する際、確実に学生に伝わるようにしてほしい。	・改組により、学生への情報周知で混乱を招いている部分もあるが、学生へ必要な情報が周知されるよう教員へも働きかけを行っていく。
⑥関連部署の一部の窓口の方の対応が高圧的であるため、学生が相談しやすい窓口になるよう検討して欲しい。	・大学としても重く受け止めている。職員の資質向上、人員配置を踏まえ、組織として対処する。
⑦学生宛に来るメールが多く困っている。留学生向けのメールは留学生のみに、修士2年向けのメールは修士2年のみになど、メール配信が該当者のみに届くようにシステム化してほしい。大事なメールを見逃しやすくなるし、各種イベントへの集客の効果も薄れていると思う。見逃している人へのリマインドや再連絡の手間を考えるとトントンなのでは。	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの情報社会を踏まえた中で、送る側は、メールの表題を工夫する、受ける側も取捨選択するなど、お互いで配慮しながらやっていく事も必要。 ・メール以外のツール（C h a t など）を使わないなど自身でツールを一本化していくことも一つの手である。
⑧学科改組や教職課程が増えたことにより、教職必修科目と他の必修科目の時間が被ってしまい教職必修科目を修士になってから取らなければならなくなった、受講人数が想定よりも多かったため教室が変更されるなどがあり混乱した。	・学生ができるだけ教職科目も取りやすいような環境も整備していくことを検討したい。
⑨学費の問題が留学生にとって最も大きな困難の一つであると考えている。ほとんどの留学生は経済的な困難に直面しているため、財政支援政策をさらに拡充する必要があります。例えば、大学院に進学する留学生に対して学費の全額免除や入学金の減免を行うことです。これらの措置は、経済的な負担を軽減するだけでなく、留学生が学業や研究に集中できる環境を整え、財政面での不安を解消することで、留学生の全面的な成長を促進するのに役立つと思う。	・引き続き奨学金制度や入学金免除制度で支援していくとともに、県内企業が実施している独自の奨学支援制度等を周知し、留学生が学業に集中できる環境づくりに努めていく。
⑩可能であれば、女子学生宿舎を増設して欲しい。	・今後、留学生数も増えてくることが予測されるため、駐車環境も含め、検討していく可能性がある。
3. まとめ	
学生コメント	学生が悩んでいる事項について、大学側でも取り組んでいることもあり、その対応を知ることができたので、大学に対する理解が深まった。学長をはじめ先生方にも真摯に対応いただいたことに感謝している。
大学側コメント	<p>大学としても学生だけが抱える課題だけでなく、教職員とも対話を重ね、駐車場管理など安全セキュリティ面も含め学内の諸問題への対応を検討している。</p> <p>その一つとして、来年度以降、他専攻の学生と交流する機会を増やすための施設改修を検討しており、その際は、学生の皆さんからも意見を伺う場面もあると思うので、新鮮な意見をぜひお聞かせください。</p>